総合周産期母子医療センター（小児科部門）

1．スタッフ（平成29年４月１日現在）

部　　長（准教授）矢田ゆかり
　　（教　授）河野　由美
医　　員（助　教）俣野　美雪
　　鈴木　由芽
　　鈴木　　悠
シニアレジデント　５名　小児科と兼務。

2．新生児集中治療部の特徴

栃木県総合周産期センター二施設のうち一つとして、県で出生するハイリスク新生児を二分する形で診療している。入院する新生児の疾患は、超低出生体重児から先天異常、外科疾患など多岐にわたる。

・認定施設

日本周産期・新生児医学会基幹認定施設

・認定医

日本小児科学会認定指導医　矢田ゆかり
日本小児科学会専門医　矢田ゆかり
　他４名
日本周産期・新生児医学会（新生児）専門医
　矢田ゆかり
　他２名

3．実績・クリニカルインディケーター

1）年間入院患者数

403名（再転科・転入14名を除く）。院内出生366名（初診時から外来観察67名、母体搬送27名、母体外来紹介272名）、院外出生37名（病院等からの搬送34名、自宅・車中分娩など３名）。

2）人工呼吸器管理数・率

123例／403例、30.5％。

3）生存率・死亡数など

出生体重（BW）別、在胎週数（GA）別入院数および死亡数を示す（妊婦健診未受診妊婦からの出生児１名は臨床所見から正期産に加えた）。

GA（W）	入院	生存	死亡	生存率（％）
22	1	1	0	100.0-
23	3	3	0	100.0
24	2	1	1	50.0
25	2	2	0	100.0
26	2	2	0	100.0
27	1	1	0	100.0
28	3	3	0	100.0
29	7	7	0	100.0
30	9	9	0	100.0
31	14	14	0	100.0
32	13	13	0	100.0
33	25	25	0	100.0
34	28	27	1	96.4
35	32	31	1	96.9
36	28	28	0	100.0
37以上	233	232	1	99.6
計	403	399	4	99.0

BW（g）	入院	生存	死亡	生存率（％）
<500	–	–	–	–
<1000	17	16	0	94.1
<1500	38	36	2	94.7
<2000	58	58	0	100.0
<2500	85	85	0	100.0
>2500	205	204	1	99.5
計	403	399	4	99.0

4）死亡症例内訳

在胎35週	早産児、心不全、Bland-White-Garland症候群
在胎34週	極低出生体重児、VATER連合
在胎24週	超低出生体重児、非免疫性胎児水腫
在胎41週	18トリソミー、心室中隔欠損、三尖弁閉鎖

5）先天性心疾患児入院例

有意な血行動態異常を呈する中等症・重症例34例。PICU転科23例、NICUから退院11例、NICU入院中死亡２例。

6）多胎入院数

83名（20.6％）。

7）外科症例数（手術例のみ）

小児外科16例。小児脳神経外科１例、小児耳鼻科２例、眼科３例（光凝固２例、繊維柱帯切開術１例）。

8）他院への搬送

11例。いずれも状態安定後に搬送元等の病院に転院。

4．2017年の目標・事業計画等

総合周産期母子医療センターとして、産科部門との連携をより充実させ、よりハイリスクの症例に対応する。また県内の総合周産期センターである獨協医大、および関連の地域周産期センターと協力・連携しながら、栃木県、北関東地域の周産期医療の充実を図る。さらに周産期・新生児医学会認定施設として、専門医の育成に力を注ぎたい。